

# 特別号

## Brownfields 2006 もうすぐ開催！

～ グリーンなブラウンフィールド会議開催にむけて ～

環境メルマの佐藤です。今年も米国ブラウンフィールド会議の季節がやってきました。コロラド州デンバーにて10周年記念を迎えた昨年の会議（特別号1&2参照）は、参加者は5000人を上回り、たいへん活気に満ち溢れていたのが大変印象的でした。沢山のイベントがありましたが、なかでも昨年11月1日に調印された新AAIとその実務規格として位置づけられるPhase Iの改定はビッグニュースとして取り上げられました。時が経つのは早いもので、あれから1年がたちました。米国では既に、改定された規格（ASTM E1527-05）にそってPhase Iが実施されています。

さて、今年のブラウンフィールド会議の開催地はマサチューセッツ州のボストン。開催日は来週月曜日から水曜日（11月13日-15日）の3日間。プログラムをみると、教育セッション、見学ツアー、ドキュメンタリー・フィルムの上映、特別トレーニング、ブラウンフィールドサイト取引のためのフォーラム、ポスター展示、スマートグロースに関するシンポジウムなどが列挙されており、昨年同様内容盛りだくさんといった感じです。会議終了翌日の11月16日には、ボストンカレッジにて別途ブラウンフィールドに関するシンポジウムがされる予定であり、発表者は米国のみならずオーストラリアやベルギーからも見えられるようです。

さて、今年で第11回を迎えるブラウンフィールド会議は、「Greening the Conference（会議をグリーンに！）」というキャッチフレーズのもと、会議の様々な場面で環境への配慮が見られます。具体的な活動内容を見てみましょう。

- ・ マージパーズ（複数データベース間の重複部分突合せ・排除）システムを改良して、同じ郵便物がダブルで作成されることを予防する。（同一の郵送物が2回届いた経験ありませんか。あれって紙の無駄ですよ。）
- ・ 会議資料作成においてリサイクル用紙の使用率を上げる。（リサイクル用紙利用率はどれくらいなのでしょう。）
- ・ 同市の発達した公共交通、もしくはハイブリッド車の利用を会議参加者へ推奨する。（これについて、会議運営側からどのようなアナウンスがあるのか、楽しみです。）
- ・ 環境配慮型のホテルと提携する。（これからのホテルはクリーン&グリーンで！）
- ・ 食料廃棄物のコンポスト化を図る。（どうやって？食べ残しをどのように回収するのか、観察してきます。）
- ・ 会議用のバスにはマサチューセッツ州の反アイドリング規制（Massachusetts's anti-idling regulations）を徹底させる。

・ グリーン・ビルディングに関する教育セッションやワークショップを開催する。  
などの取り組みが進行中です。開催ホストを務めるマサチューセッツ州の環境マインドぶりが感じられるパフォーマンスですね。

1996 年にはじまったこの会議は、いつからか「ブラウン」の中に「グリーン」という言葉の存在が見え始めています。グリーンビルディングにグリーンな会議。果たしてこの会議の行方は？そんなところもちょっと興味がわいてくるのです。

来週は、会議の様子を皆様にお伝えいたします。

Thanks God, It' s Friday!

Thanks God, It' s Brownfield!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))